

科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

エーリッヒ・フロムは、愛は存在しない、存在するのは、愛するという行為だけであるという意味のことをその著書の中で述べている。この言葉を借りて言えば、教師を志す者にとっては、存在するのは「教育」という抽象的なものではなく、教育するという行為だけであるということになる。教育行為の研究は、第三者として理論や方法について学ぶのみでなく、最終的には自分自身が当事者となって教育実践を積むことが大切である。

授業のねらいはここにある。とは言っても、教育実習は、単なる指導法の訓練ではないし、また指導技術の習得のためだけのものでもない。教育という行為は、さまざまな要素から成り立っている。教室という空間、特定の授業時間、教材・資料などいろいろあげられるが、中心となるのは、教師と生徒の具体的人間関係である。人間関係の作り出す文化的事象の研究で最も大切なのは研究者（教育実習者）自身の教育観、言語観、人間観、世界観であろう。この授業は、実習生自身の思想の確立までを含んでいることになる。教育行為が成功するか否かは、教師の資質によることが多いといわれるのはそのためである。

#### 内容

国語科の教師にとって、言葉の機能とは何か、人間にとって言語とはどういう意味を持つかという確かな言語観を自分なりに持つことが大切である。教育実習が単なる授業法の訓練や指導技術の習得のためにだけあるのではないと先に述べたのは、こういう理由による。

また、教育者にとって必要なのは、使命感と教育愛である。これは、直接生徒に接した具体的な人間関係においてのみ養われるものである。

#### 評価

実習校からの評価を100点に換算して、評定する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職志望の初学者を主な対象としつつ、学習の動機づけ、学習の基礎理論、教授学習における学習理論、教育評価と教育測定について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。さらに、障害をもった生徒の学習の過程などについても取り扱う。

児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育や学習について考えるヒントを提示するのが本講義のねらいである。

#### 内容

##### 1. 教育心理学とは

- ・教育活動とは何か
- ・学校教育と教育心理学

##### 2. 学習の動機づけ

- ・欲求と動機づけ
- ・内発的動機づけ
- ・統制感、原因帰属
- ・期待 - 価値モデル

##### 3. 学習の基礎メカニズム

- ・学習と条件づけ
- ・観察学習と学習の諸相
- ・学習における記憶の役割
- ・問題解決としての学習

##### 4. 授業における学習理論

- ・プログラム学習、発見学習、有意味受容学習
- ・適性処遇交互作用
- ・総合的な学習の時間

##### 5. 学習成果の評価と測定

- ・評価の意義と役割・絶対評価、相対評価、到達度評価
- ・診断的評価、形成的評価、総括的評価・心理検査と心理測定

#### 評価

評価は、学期末試験100点満点により行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、教育活動を理解するために有効である教育心理学の理論や知見を正確に理解し自らの知識として定着しているのかである。毎回の授業における内容を論理的に理解し、必要な事項を身につけることを求める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	教育方法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本講義は、次のことを目標として展開する。

1. 中等教育における教育方法学の基本について学ぶ。
2. とくに教育メディア活用についての諸問題について学ぶ。

なお本科目は、教員免許法に定める「教育課程及び指導法に関する科目」の2単位に対応するものである。

#### 内容

内容は次の通りである。

1. 教育課程の意義と類型
2. 教育課程の編成
3. 学習指導の意義と目標
4. 教材とその研究
5. 学習指導の原理
6. 学習指導課程
7. 学習集団の組織
8. 授業と指導技術
9. 教授メディアとその活用
10. コンピュータ利用の学習指導（総論）
11. 授業設計の実際
12. ~ 14. 東京都教育委員会の取り組み
15. 期末試験

#### 評価

毎回授業冒頭の小テスト・定期試験により評価する。その比率は50点：50点とする。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】長谷川栄・佐々木俊介編著 『教育の方法と技術 - 実践的指導力の基礎を培う』 協同出版  
 天井・橋本編著 『現代実践教職入門』 学事出版

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. 学校教育の今日的課題である「生きる力」を育成することが重要な課題である。その課題を果たすべき役割を特別活動の視点から考察する。
2. 特別活動の理念や歴史について学び、学校教育における特別活動の位置づけについて理解を深めるとともに、特別活動の進め方について実践的に考察する。
3. 中学校における特別活動の目標・内容・指導のありかた等について考察する。

本科目は、教員免許法に定める科目に対応する。教員の免許を取得しようとする者は、必修である。

## 内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史の変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）	
14	14. 模擬授業の実践（2）	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

## 評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	教育基礎論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 1. 位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」（4単位中の2単位）に対応するものである。

#### 2. 教育目的

- (1) 教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ。
- (2) 教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶ。

#### 内容

15回のうち、14回を下記の内容で授業する。最終15回は総合的な筆記試験を行う。

##### 1. 「教育」という概念をめぐって

西洋・東洋・日本の、それぞれにおける「教育」という概念の歴史的な理解の仕方について学ぶ。

##### 2. ギリシア・ローマ時代の教育観

##### 3. 中世・ルネサンスの教育観と「大学」の成立

##### 4. 近代教育観の展開

「学校」という制度は「市民社会」の成立と並行して進展する。その課程をロック、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルトらの思想を学びながら理解する。

##### 5. 20世紀の教育観

教育が「義務化」された課程を学ぶとともに、20世紀前半の代表的な教育思想を学ぶ。

##### 6. ジョン・デューイの思想

プラグマティズムの代表的思想家デューイを手掛かりに、現代民主主義社会の教育について学ぶ。

##### 7. 江戸時代以前の日本の教育

##### 8. 明治から昭和初期の教育

##### 9. 民主主義と戦後の教育体制

##### 10. 教育基本法と学校制度

##### 11. 教育行財政・社会教育・生涯学習

##### 12. 教育の社会的基盤

#### 評価

毎回授業時の小テストと期末考査により評価する。その比率は、小テスト50：期末試験50で、合計60以上を単位認定する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	国語科教育法		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

国語科は、小学校から高等学校まで最も基礎的な科目として位置づけられている。国語科教育法とは、教師として国語教育をいかに達成するかという指導内容、指導技術を修得することを目的としている。現在、新しい時代の要請に対応できるように、小学校から順次新指導要領が編成されつつある。

その改訂は、要点化すると次のようになる。

言語の教育としての立場を一層重視すること 「人間力」の育成 論理的に意見を述べる能力、適切に表現する能力、目的に応じて適切に読みとる能力や読書に親しむ態度の育成 生涯に涉って学習する機会の提供とその基礎能力の育成 漢文指導 等々を挙げることができる。

カリキュラム作成に当たっては、各学校の創意工夫が従来より一層重要視され、それに伴って、教師の言語観、指導観あるいは授業での援助の仕方などの工夫が、学習者の個性を尊重し、支援する方法論として要求されることになる。このため、教師としてはどうあるべきか、国語科における言語教育とは何か、ということを経験的に把握し理解するとともに、実践化、具体化できるよう、基礎基本となるべき方法論の追求をねらいとする。

#### 内容

この講座では、国語科教育にかかわる必須の要件を、資料を用いて講読し、かつ演習も加味する。ここでは、国語教育とは何か、主に国語理論に重点を置き、さらに教育実習についての基本について学ぶ。

#### 評価

レポート50点と平常点50点による。但し、止むを得ない場合を除き、欠席は認めない。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『学習指導要領』（中・高）。その他、資料等は別途指示する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この講座では、学習指導要領に基づき、中学英語二種免許状の取得に必要な知識の獲得はもちろんのこと、教壇実習で必要な教授法について、実践的な指導技術を学ぶことをねらいとします。

#### 内容

まず、テキストやモデル授業のビデオを使って1時間の授業の組み立て方を学んだあと、Warm-upに続いてListening、Speaking、Reading、Writingなど具体的な指導法を研究し実践します。学生は教師と生徒の役をそれぞれ持ちまわりで分担し、該当する箇所の指導案を作成します。

第 1 週 授業説明

第 2 週 中学校の英語授業

第 3 週 授業の構成

第 4 週 Listeningの指導（その1）

第 5 週 Listeningの指導（その2）

第 6 週 Listeningの指導（その3）

第 7 週 Speakingの指導（その1）

第 8 週 Speakingの指導（その2）

第 9 週 Speakingの指導（その3）

第 10週 Readingの指導（その1）

第 11週 Readingの指導（その2）

第 12週 Readingの指導（その3）

第 13週 Writingの指導（その1）

第 14週 Writingの指導（その2）

第 15週 まとめ

#### 評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

道徳教育の理念や歴史について理解を深め、中学校・高等学校における道徳教育の進め方について多角的に考察する。

【留意すべきこと】 中学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること

#### 内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)
14	14	模擬授業の実践(2)
15	15	模擬授業の評価とまとめ

#### 評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物



科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生徒指導については、高校時代までに、指導を受けるという経験を通して、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

#### 内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法（観察法）
8. 児童・生徒理解の方法（面接法）
9. 児童・生徒理解の方法（検査法）
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. 試験

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて、別途プリントや資料を配布して、講義形式で行う。そして、質問を発して、考えてもらい、挙手の形で答えるという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて質問を発するが、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

#### 評価

平常点（20点）と試験（80点）の計100点。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川？成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

江川？成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

位置づけ：教職科目の中の「生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応する。

目 標：教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

概 要：教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

## 内容

講義の方針：学校現場において、児童生徒を指導するために身につけておくべき基礎知識を解説する。加えて、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための心理学的知識やアセスメント方法を学ぶ。

講義の進め方：講義を主とする。講義は教科書に沿って行われる。適宜VTR を使用する。なお、授業中もしくは授業後に、トピックに関する意見や感想などの提出を求めることもある。

内容：主に以下のトピックスを15 回に分けて取り扱う予定である。

- 1) 今日の教育環境における学習者が抱える課題
- 2) 「教育相談」学習の意義
- 3) 「教育相談」の概念
- 4) 「教育相談」の心理学的基礎
- 5) 「教育相談」のすすめ方
- 6) 「教育相談」における心理アセスメント
- 7) 「教育相談」の技法
- 8) 「教育相談」の技法
- 9) 主な行動問題の理解と対応のポイント
- 10) 学校教育の課題

## 評価

【評価の方法】出席、講義への参加度、試験を総合的に評価する。配分は、出席：30 点、講義レポート（講義中に数回課す予定）：20 点、試験：50 点。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】一丸藤太郎・菅野信夫著 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房 2002

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

有村久春著 『キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談』 金子書房 2009

菅野純著 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

科目名	総合科目指導法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

・人類共通の課題として国際理解、環境問題等があり、わが国の課題としては福祉・健康や家族関係等が挙げられる。これらの中から複数の課題について、受講者の興味関心に応じて具体的なテーマを選択し、複数の教員の専門分野から指導を受けて、現実の社会の状況を適切に理解できるようにする。

・演習・実習を通して、文献や資料の検索方法、身近な観察、実験、野外実習に基づく生命科学や自然科学からのアプローチの方法、社会福祉等における現場教育の意義、コンピュータを駆使してのデータのまとめ方、口頭や文章による成果の公表の仕方などを身に付ける。

#### 内容

(1) 総合科目の意義とねらい、4領域の課題に対して、共通のテーマを設定する。

(2) 情報社会と教育、情報教育の流れについて「福祉」という視点から調査する。情報バリアフリー、ユニバーサルデザイン、デジタルディバイドなどについて議論する（3回）。

(3) 生命科学と環境問題、生命科学からみた「環境問題」が生態系に与える影響の調査、食化学と環境問題について学ぶ。合わせて、福祉との関連から探求する（3回）。

(4) 国際理解教育、世界の福祉行政について、必要な情報の収集、判断の基準などについてインターネットを活用して実習する（3回）。

(5) 地域社会と福祉、現代社会における福祉の理念を理解する前提として、社会福祉制度や施設についての基礎知識の講義および見学・実技等の体験的授業を行う（3回）。

(6) 発表会（受講者全員）

(7) まとめ

#### 評価

各担当教員が課する課題（20%ずつ）について合計80%、授業態度（20%）を総合して評価する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が授業中に配布する。

科目名	教育実践論		
担当教員名	岩井 雄一、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教科又は教職に関する科目」（4単位中の2単位）に対応する。集中講義による事前・事後指導と、7日間の現場実習により構成する。

#### 内容

1. 集中講義による事前指導（4時限相当）
  - （1） 統合教育の理念
  - （2） 社会福祉の歴史と施設種類
  - （3） 特殊教育の歴史と学校の種類・特性
  - （4） 介護の基本手技
2. 現場実習
  - （1） 社会福祉施設における実習（5日間）
  - （2） 特殊教育学校における実習（2日間）
3. 事後指導（2時限相当）
  - （1） 実習を振り返って
  - （2） 体験報告書の作成について

#### 評価

実習校・実習施設からの評価を100点満点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは指定しない。

都道府県の社会福祉協議会や教育委員会の指導冊子を配布し、これに基づき指導する。

科目名	国語科教育法		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

国語科教育法 においては、主として理論に基づくものであったが、 においては実践論を中心に行う。実践とは教育現場で教師が複数の学習者を学校教育という場において、如何に学習者の個々の能力や個性を発見し、伸ばし、または創り出していか、ということを経験の中で整備する方法である。

特にクラスという単位で、多くの児童生徒をあらゆる方向から個々の学習能力や、興味関心を高め、学齢に即して最大限に引き出すことを目的とする。単に指導技術の問題ではない。教師の児童生徒への公平にして正鵠を射た対応とがあいまって、はじめて学習の場が保証されるのである。

従って教師は、よりよいクラス経営のあり方、家庭との連携、生徒の個々の事情等をふまえながら、国語科という科目の学習を行うわけで、その中で言語を通じて、学習目標を達成することが大切である。そのための実践的な方法論をこの講座のねらいとする。

#### 内容

現在使われているテキスト（教科書教材を含む）を検討しながら、評価の方法、目標の立て方、言語環境の整備のあり方などを具体的に論究する。但し、特に教科書だけによるものではなく、現時点での国語教育理論を整理したものを元に基礎基本に関する講義・演習を行う。また、さまざまな角度から国語教育に関する事、読書活動、及び基礎科目としての国語に必要な文献や国語教育にとって必要な知識を養うための資料を読みこなす素養を身につけることを学ぶ。

#### 評価

レポート50 点と平常点50 点による。但し、止むを得ない場合を除き、欠席は認めない。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし。別途指示する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この講座では、「英語科教育法I」で学んだ基礎知識に加え、1時間の授業全体を通して肉付けをしながらより良い授業展開ができるようになることをねらいとします。

#### 内容

「英語科教育法I」に引き続き模擬授業をすすめながら、日本英語教育史、教科書分析、指導案作成の指導を行います。日本英語教育史では、日本の英語教育の歴史を概観して、さまざまな教授法に触れることにより、現在中学校で行われている英語教授法を具体的な方法論の形で把握します。また、随時英語実力テストを行ったり、基礎英文法の復習などを通して、学生の英語力の向上を図ります。

第 1 週 総合活動（その1）

第 2 週 総合活動（その2）

第 3 週 総合活動（その3）

第 4 週 早期英語教育（その1）

第 5 週 早期英語教育（その2）

第 6 週 評価（その1）

第 7 週 評価（その2）

第 8 週 言語とその指導（その1）

第 9 週 言語とその指導（その2）

第 10週 英語教授法と英語教師（その1）

第 11週 英語教授法と英語教師（その2）

第 12週 教授メディア（その1）

第 13週 教授メディア（その2）

第 14週 教授メディア（その3）

第 15週 まとめ

#### 評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	教職入門		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 1. 位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」（2単位）に対応するものである。

#### 2. 教育目的

- (1) 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。
- (2) 教員の職務内容（サービス・研修など）について学ぶ。
- (3) 教員採用のあり方などを知る。

#### 内容

内容は、次の8つの柱から構成し、これを14回の授業に展開する。

最終週の第15回は、期末の総合的筆記試験とする。

##### 1. 教員生活の実際

公立学校教員の社会的使命について認識を深める。

##### 2. 校務分掌の体系

教員が日常的に携わる「授業以外の基本業務」について、その体系と職務内容を学ぶ。

##### 3. 学校教育と法体系

教育基本法、学校教育法をはじめとして、公教育の法的根拠と規定を学ぶ。

##### 4. 学習指導要領の法的意義

初等中等教育における「学習指導要領」の法的拘束力について、正しい認識を身につける。

##### 5. 教員の研修義務

教育公務員特例法にみる、教員の職責遂行義務と研修義務について、正しく理解する。

##### 6. 「管理運営規則」とサービスのあり方

都道府県の定める条例（管理運営規則）の骨子を学び、学校経営の基本を理解する。

##### 7. 学校をめぐる諸問題

公立学校をとりまく、社会問題について事例を学ぶ。

##### 8. 教員採用システム（公立・私立）の実際とその対応

#### 評価

毎回授業時の小テストと期末試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で、60点以上を単位認定する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは、現在選定中であるので、初回の授業で指示を与える。

（いわゆる「教育小六法」を使用する）

科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

エーリッヒ・フロムは、愛は存在しない、存在するのは、愛するという行為だけであるという意味のことをその著書の中で述べている。この言葉を借りて言えば、教師を志す者にとっては、存在するのは「教育」という抽象的なものではなく、教育するという行為だけであるということになる。教育行為の研究は、第三者として理論や方法について学ぶのみでなく、最終的には自分自身が当事者となって教育実践を積むことが大切である。

授業のねらいはここにある。とは言っても、教育実習は、単なる指導法の訓練ではないし、また指導技術の習得のためだけのものでもない。教育という行為は、さまざまな要素から成り立っている。教室という空間、特定の授業時間、教材・資料などいろいろあげられるが、中心となるのは、教師と生徒の具体的人間関係である。人間関係の作り出す文化的事象の研究で最も大切なのは研究者（教育実習者）自身の教育観、言語観、人間観、世界観であろう。この授業は、実習生自身の思想の確立までを含んでいることになる。教育行為が成功するか否かは、教師の資質によることが多いといわれるのはそのためである。

#### 内容

国語科の教師にとって、言葉の機能とは何か、人間にとって言語とはどういう意味を持つかという確かな言語観を自分なりに持つことが大切である。教育実習が単なる授業法の訓練や指導技術の習得のためにだけあるのではないと先に述べたのは、こういう理由による。

また、教育者にとって必要なのは、使命感と教育愛である。これは、直接生徒に接した具体的な人間関係においてのみ養われるものである。

#### 評価

実習校からの評価を100点に換算して、評定する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）



科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

エーリッヒ・フロムは、愛は存在しない、存在するのは、愛するという行為だけであるという意味のことをその著書の中で述べている。この言葉を借りて言えば、教師を志す者にとっては、存在するのは「教育」という抽象的なものではなく、教育するという行為だけであるということになる。教育行為の研究は、第三者として理論や方法について学ぶのみでなく、最終的には自分自身が当事者となって教育実践を積むことが大切である。

授業のねらいはここにある。とは言っても、教育実習は、単なる指導法の訓練ではないし、また指導技術の習得のためだけのものでもない。教育という行為は、さまざまな要素から成り立っている。教室という空間、特定の授業時間、教材・資料などいろいろあげられるが、中心となるのは、教師と生徒の具体的人間関係である。人間関係の作り出す文化的事象の研究で最も大切なのは研究者（教育実習者）自身の教育観、言語観、人間観、世界観であろう。この授業は、実習生自身の思想の確立までを含んでいることになる。教育行為が成功するか否かは、教師の資質によることが多いといわれるのはそのためである。

#### 内容

国語科の教師にとって、言葉の機能とは何か、人間にとって言語とはどういう意味を持つかという確かな言語観を自分なりに持つことが大切である。教育実習が単なる授業法の訓練や指導技術の習得のためにだけあるのではないと先に述べたのは、こういう理由による。

また、教育者にとって必要なのは、使命感と教育愛である。これは、直接生徒に接した具体的な人間関係においてのみ養われるものである。

#### 評価

実習校からの評価を100点に換算して、評定する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教育実習		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. 教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに習得してきた、教授・学習、教育方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力を身につける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

#### 内容

教育実習協力校における、3週間以上の授業の担当（中学校英語科）による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、1単位に相当する。

## 内容

1.事前指導( 8時限相当の時間を配当する )

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2.中間指導( 4時限相当の時間を配当する )

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3.事後指導( 3時限相当の時間を配当する )

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

## 評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書( 著者名・書名・出版社名 )

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

1. 教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに習得してきた、教授・学習、教育方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力を身につける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験をとおして、自身の教職についての適性を見極める。

#### 内容

教育実習協力校における、2週間の授業担当による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）